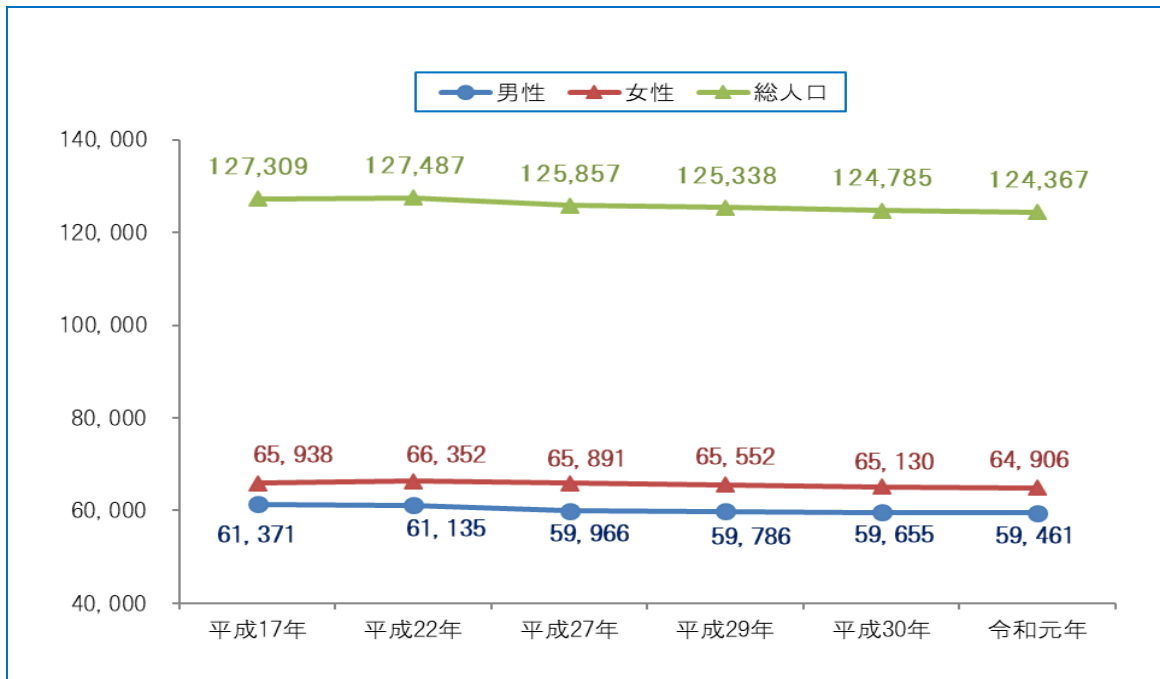


Ⅱ 霧島市の社会環境の状況

1 人口

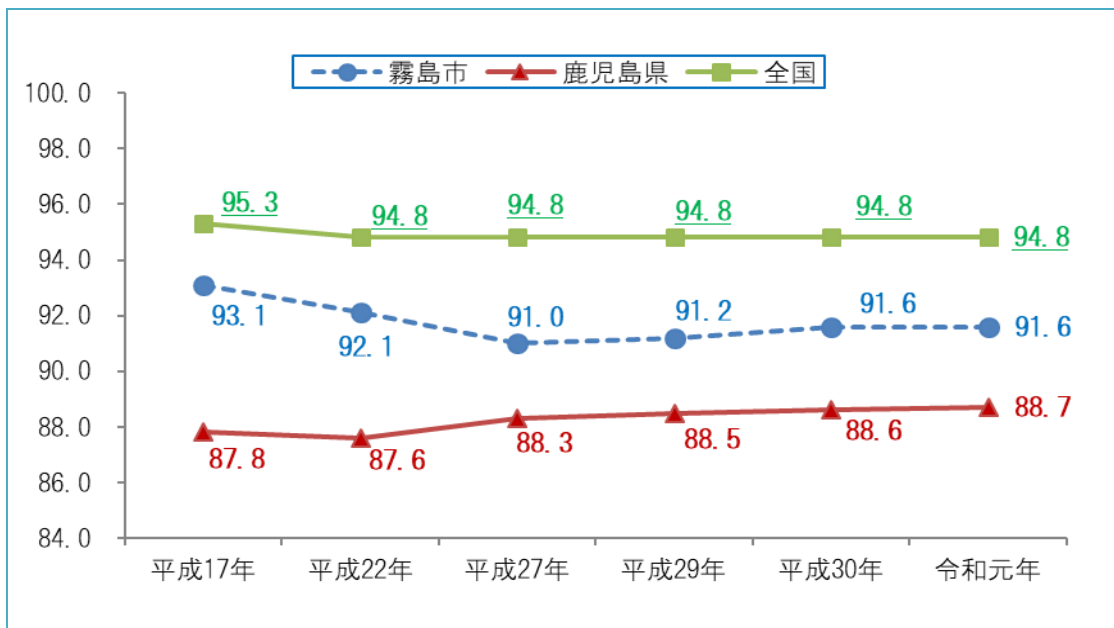
(1) 男女別人口

本市の人口構成を男女別にみると、令和元年10月1日現在で男性が59,461人、女性が64,906人であり、女性が5,445人多く、人口性比（女性100人に対する男性の数）は91.6となっている。



(平成17年～平成27年：総務省「国勢調査」、平成29年～令和元年：鹿児島県推計人口)

(人口性比の推移)

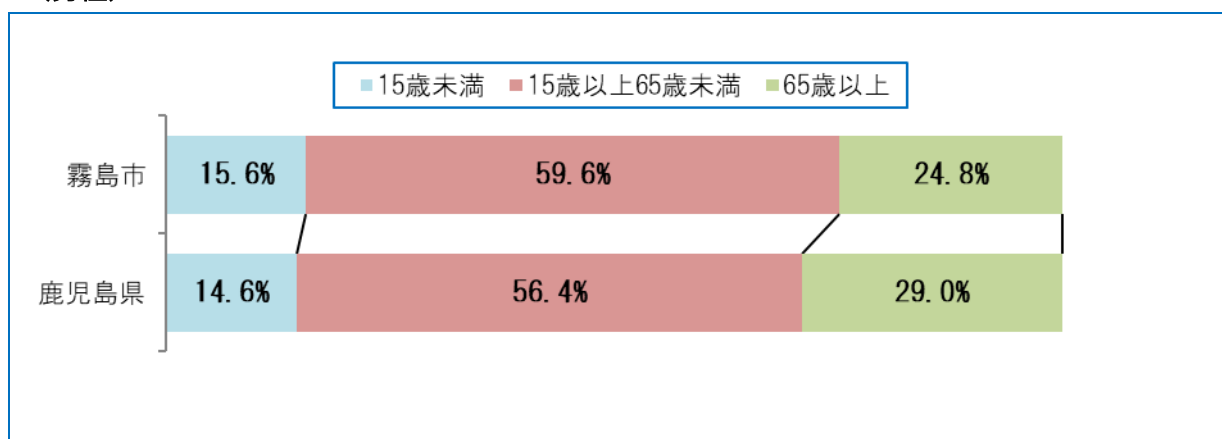


(平成17年～平成27年：総務省「国勢調査」、平成29年～令和元年：鹿児島県推計人口)

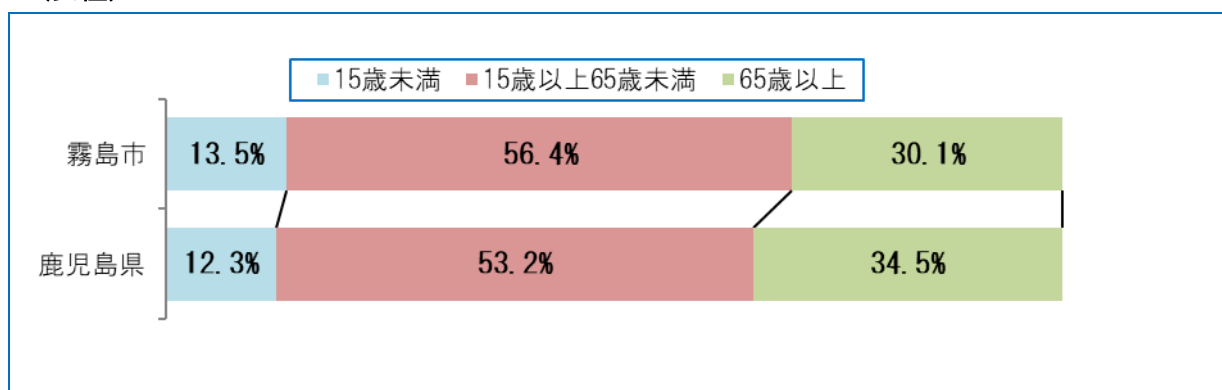
(2) 年齢別人口

本市の人口構成を男女・年齢別にみると、令和元年10月1日現在で老年人口（65歳以上）は、男性が24.8%、女性が30.1%となっており、女性の方が男性より高齢化が進んでいる。一方、男女ともに、県内平均値と比較して、老年人口の割合は低く、年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合は高い。

(男性)

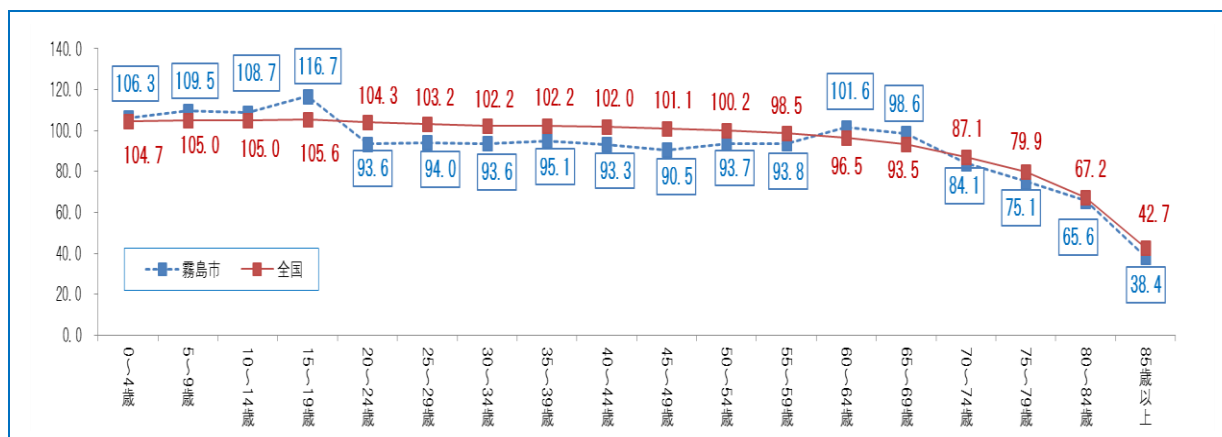


(女性)



(鹿児島県推計人口)

(年齢(5歳階級)別人口性比)



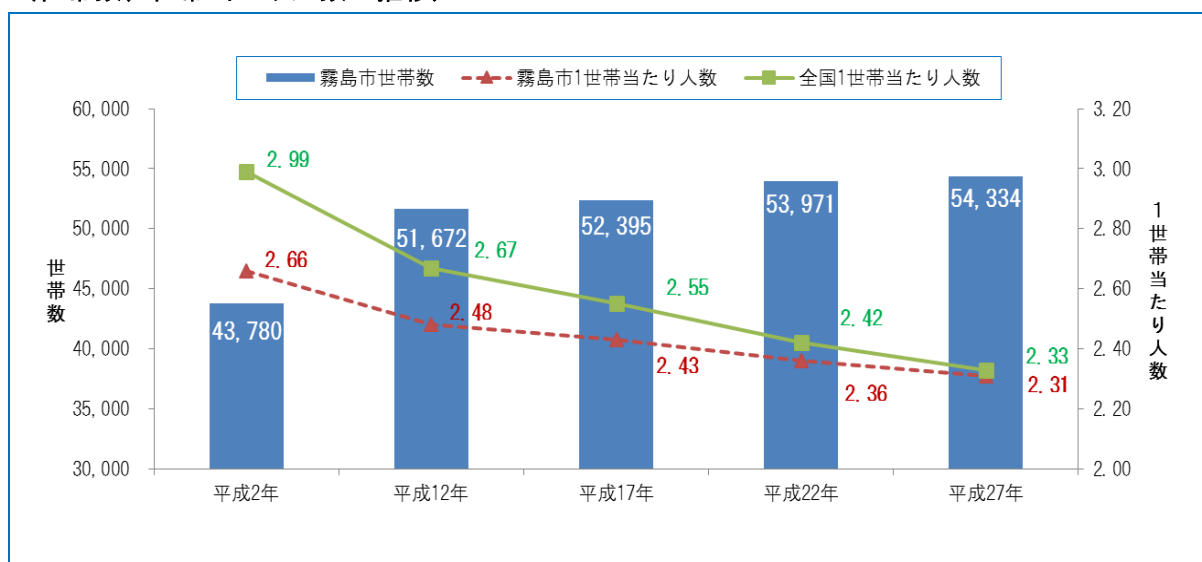
(総務省「平成27年国勢調査」)

2 世帯

(1) 世帯数

本市の世帯数は、平成27年10月1日現在で54,334世帯となっており、前回調査時（平成22年）と比較すると363世帯、0.6%増加し、増加傾向にある。一方、1世帯当たり人員は2.31人となっており、前回調査時と比較すると0.05ポイント減少し、減少傾向にある。

(世帯数、世帯当たり人数の推移)

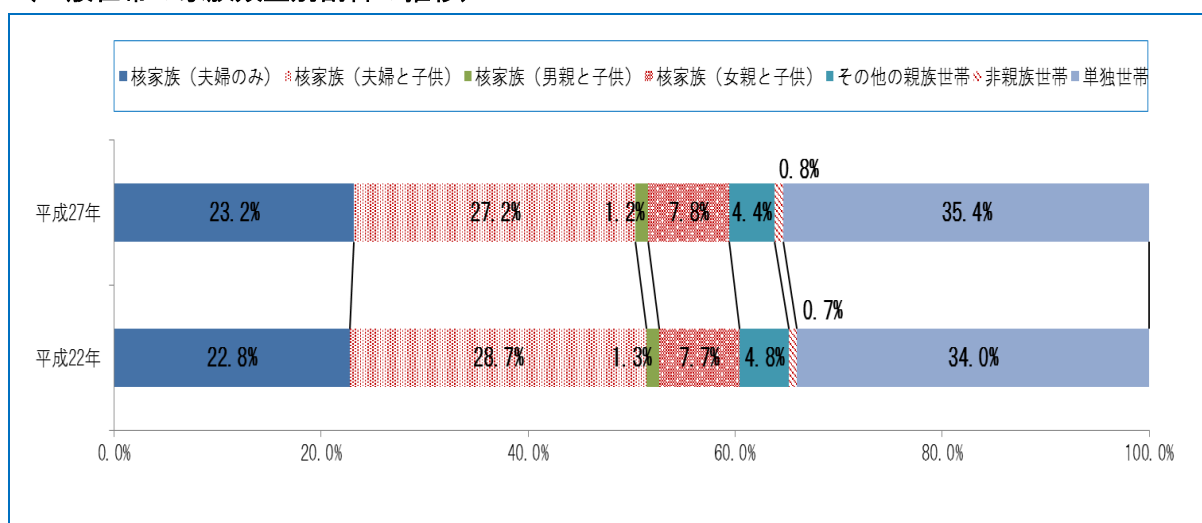


(総務省「国勢調査」)

(2) 家族類型

本市の一般世帯を家族類型別にみると、平成27年10月1日現在で、「単独世帯」の割合が35.4%と最も多くなっており、増加傾向にある。一方、「核家族のうち夫婦と子供からなる世帯」の割合は27.2%となっており、減少傾向にある。

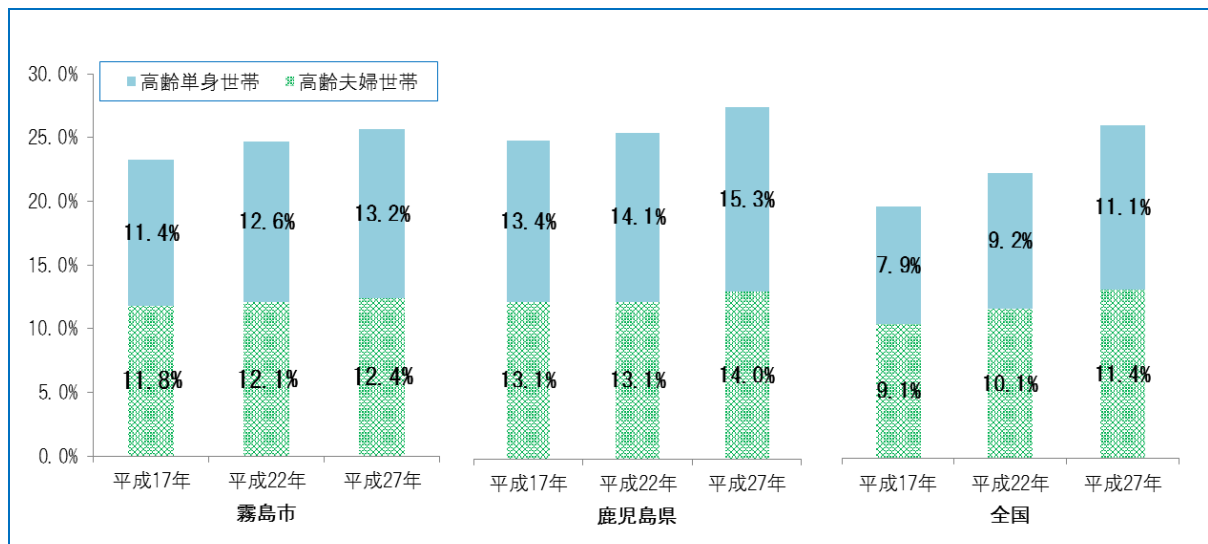
(一般世帯の家族類型別割合の推移)



(注) 一般世帯とは、「総世帯」から「施設等の世帯（病院、社会施設の入院・入所者等）」を除いたものであり、「普通世帯（①住居と生計を共にしている人の集まり、②一戸を構えて住んでいる単身者）」に「準世帯のうち一人の準世帯（間借り・下宿、会社等の独身寮の単身者）」を含めた定義である。(総務省「国勢調査」)

(3) 高齢世帯

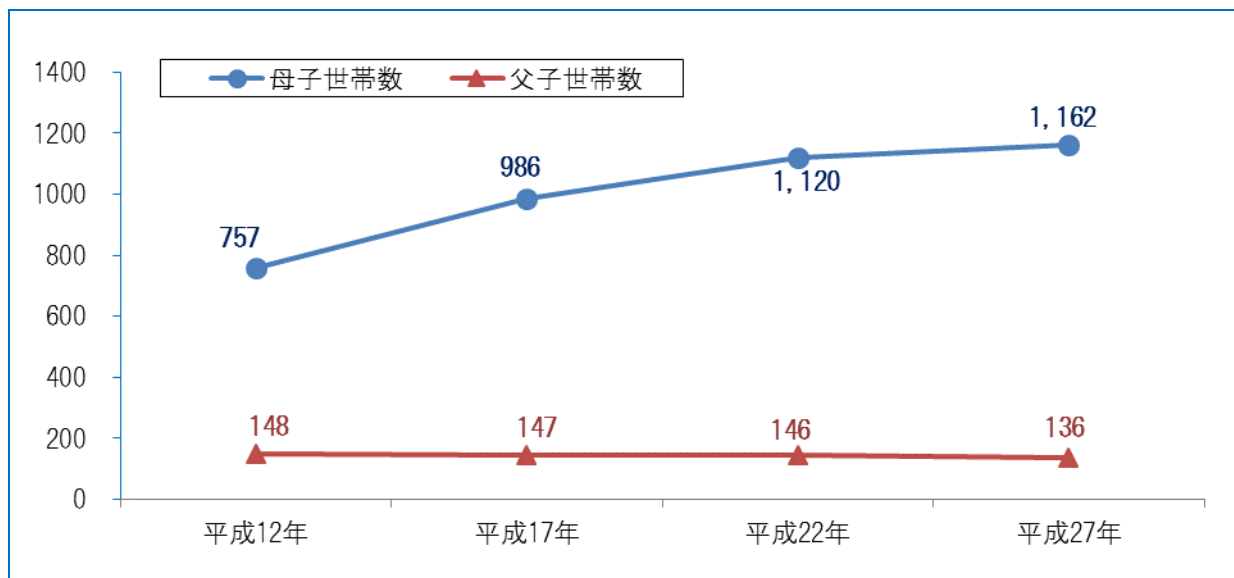
本市の高齢世帯の状況をみると、平成27年10月1日現在で「高齢夫婦世帯（夫65歳以上、妻60歳以上）」の割合が12.4%、「高齢単身世帯」の割合が13.2%となっており、いずれも増加傾向にある。なお、全国平均は、「高齢夫婦世帯」の割合が11.4%、「高齢単身世帯」の割合が11.1%となっており、本市は全国よりも高齢者世帯の割合が大きくなっている。



(総務省「国勢調査」)

(4) 母子世帯・父子世帯

本市の母子世帯数は、平成27年10月1日現在で1,162世帯となっており、前回調査時（平成22年）と比較すると42世帯、3.7%増加し、増加傾向にある。



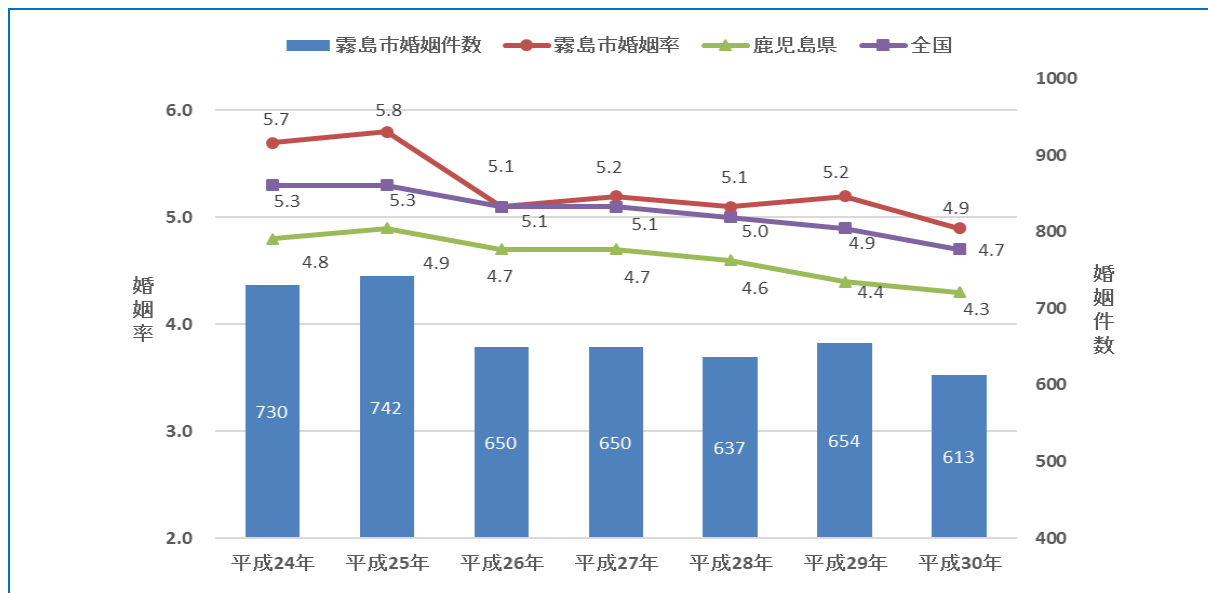
(総務省「国勢調査」)

3 配偶関係

(1) 結婚

本市における結婚の状況をみると、平成30年の婚姻件数は613件で、前年より41件減少した。なお、婚姻率（人口千人当たりの婚姻件数）は4.9であり、全国の婚姻率（4.7）と同等である。

(婚姻件数、婚姻率の推移)

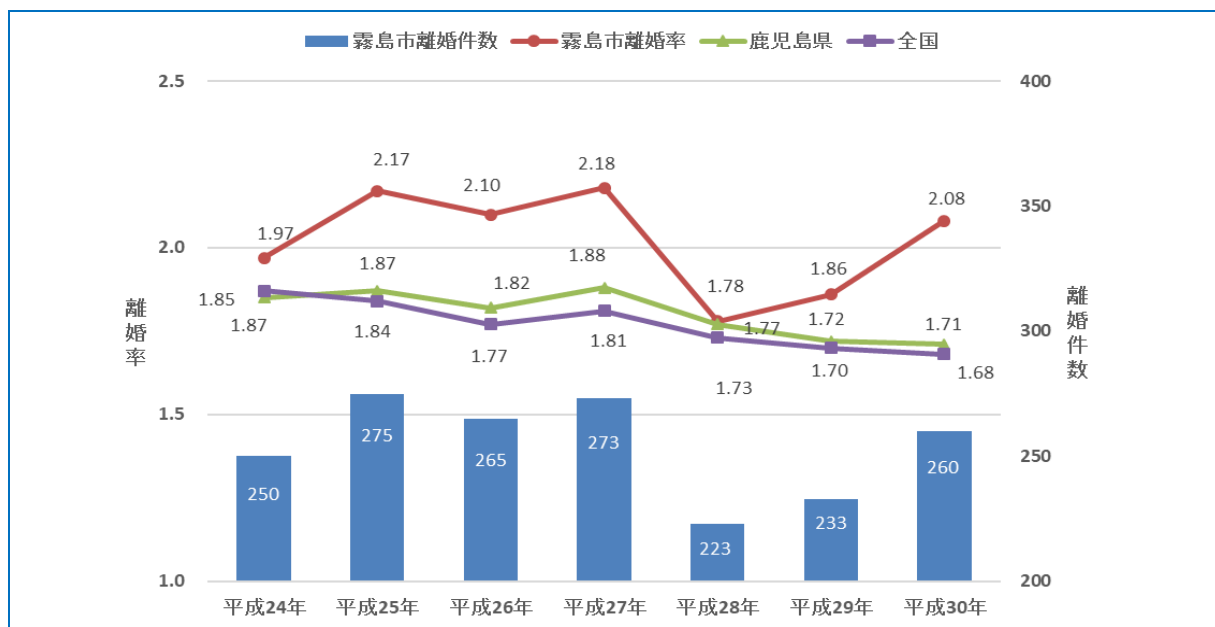


(県衛生統計年報)

(2) 離婚

本市における離婚の状況をみると、平成30年の離婚件数は260件で、前年より27件増加した。なお、平成30年の離婚率（人口千人当たりの離婚件数）は2.08となっており、鹿児島県の離婚率（1.71）より高い数値となっている。

(離婚件数、離婚率の推移)

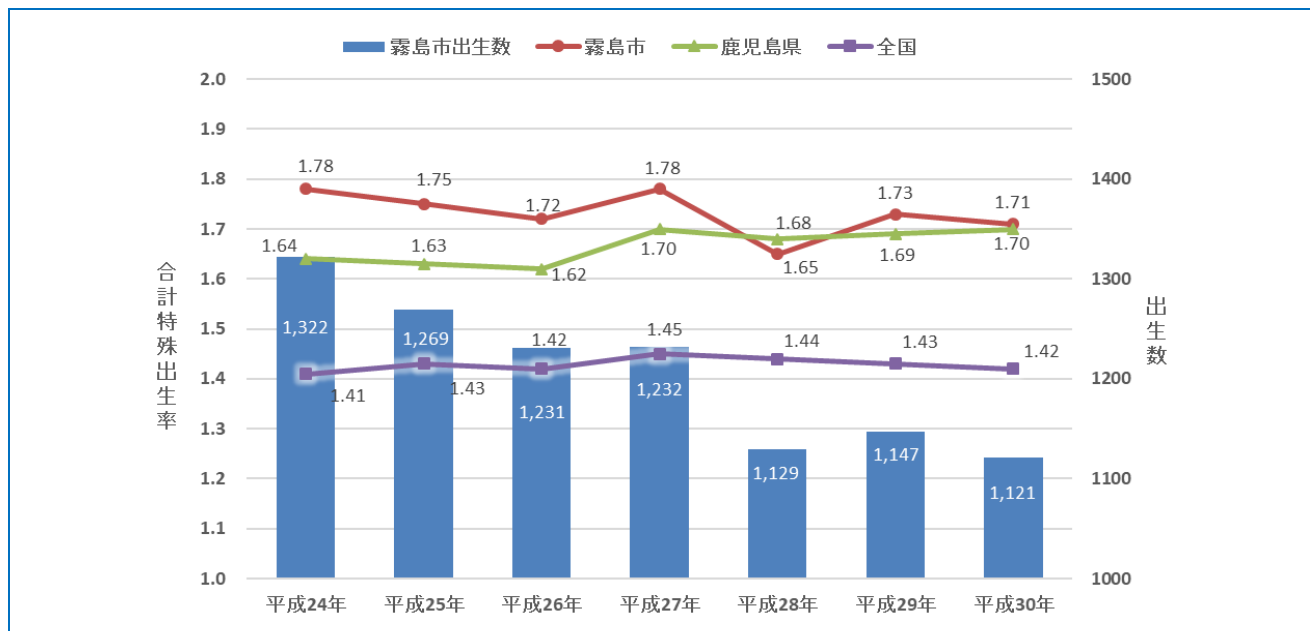


(県衛生統計年報)

4 出生

本市における出生の状況をみると、平成30年の出生数は1,121人で、前年より26人減少した。
 なお、本市における合計特殊出生率（一人の女性が一生のうちにどれだけ子供を産むか）は1.71で、鹿児島県（1.70）と同程度であり、全国（1.42）より上回っている。

（出生数及び合計特殊出生率の推移）



平成24年～平成28年合計特殊出生率（鹿児島県・全国）：衛生統計年報
 平成29年以降合計特殊出生率（鹿児島県・全国）：「人口動態統計」厚生労働省
 出生数・合計特殊出生率（霧島市）：健康増進課